



Graduate School of Global Japanese Studies

国際日本学研究科

国際的な視野の中で日本と世界をつなぐ高度な調査研究能力を

国際日本学研究科は、日本の文化及び社会システムを国際的な視点に立ち理解し、異文化及び多様な社会システムを理解することができる、高度な調査研究能力を有する人材の育成を目指します。

博士前期課程・博士後期課程が設置されており、前期課程は、ポップカルチャー研究、日本社会・産業システム研究、多文化共生・異文化間教育研究、日本語学・日本語教育学研究、英語教育学研究、文化・思想研究の6つの研究領域、後期課程は、ポップカルチャー、社会・情報・国際関係、言語・国際交流、文化・思想の4つの研究分野に分かれています。

自身の研究領域の科目の履修を通じて高度な専門性を身に付けるとともに、研究領域を横断した必修科目や、他領域の科目の履修、領域で区別されない院生共同研究室での日常的な交流、全員参加の「院生フォーラム」や「中間報告会」等を通じて、自身の研究領域とは異なる領域への視野を広げ、自身の研究領域を相対化します。

さらに、北京大学との協定に基づき、院生による研究発表会を行うなど、国際学術交流を積極的に推進しています。

中野教務事務室（低層棟3F）

※事務取扱時間（開室時間）はHPで確認してください。

電話●03-5343-8039 Mail●ggjs@mics.meiji.ac.jp

※休業期間やイベント等により開室時間は変更となる場合があります。



国際日本学研究科
Webページ

<https://www.meiji.ac.jp/ggjs/index.html>



入学者の受入方針
（アドミッション・ポリシー）

<https://www.meiji.ac.jp/ggjs/policy/admission.html>



教育課程編成・実施方針
（カリキュラム・ポリシー）

<https://www.meiji.ac.jp/ggjs/policy/curriculum.html>



学位授与方針
（ディプロマ・ポリシー）

<https://www.meiji.ac.jp/ggjs/policy/diploma.html>



人材養成その他の
教育研究上の目的

<https://www.meiji.ac.jp/ggjs/purpose.html>

幅広い研究領域

■ 博士前期課程

ポップカルチャー	日本社会・産業システム	多文化共生・異文化間教育
日本語学・日本語教育学	英語教育学	文化・思想

■ 博士後期課程

ポップカルチャー／社会・情報・国際関係／言語・国際交流／文化・思想

理論と実践を組み合わせた学際的な教育・研究環境

- 研究領域を超えた必修科目の設置
- 研究（ポスター）発表会／中間報告会／就職懇談会
- 海外協定校との学術交流／多様なフィールドワーク

カリキュラムの特色

■ 博士前期課程

博士前期課程のカリキュラムは、主要科目と特修科目の2つの科目区分から構成されます。主要科目は、大学院生が選択した領域の指導教員から2年間にわたり個別指導を受け、自身の知的関心や問題を深める研究演習科目として位置付けています。特修科目は、それぞれの領域を学ぶ上で必要な課題を取り扱う講義科目として位置付けており、必修科目として「国際日本学総合研究」を設置しています。

この「国際日本学総合研究」では、国際日本学研究そのものの理解と本研究科の基本コンセプトに関する共通認識の形成を目的としています。

■ 博士後期課程

博士後期課程のカリキュラムは、必修科目と選択必修科目の2つの科目区分から構成されます。必修科目は、大学院生が選択した指導教員から3年間にわたり個別指導を受け、自身の知的関心や問題を深める研究演習科目として位置付けています。選択必修科目は、それぞれの研究テーマを学ぶ上で必要な課題を取り扱う講義科目として位置付けられています。カリキュラム編成に関しては、2つの科目区分からの履修によって、大学院生が選択した研究分野だけではなく関連する他研究分野についても有機的に学習出来るように配慮します。

■ 博士前期課程

主要科目
ポップカルチャー演習Ⅰ
ポップカルチャー演習Ⅱ
ポップカルチャー演習Ⅲ
ポップカルチャー演習Ⅳ
日本社会・産業システム演習Ⅰ
日本社会・産業システム演習Ⅱ
日本社会・産業システム演習Ⅲ
日本社会・産業システム演習Ⅳ
日本社会・産業システム演習Ⅴ
国際関係・地域演習Ⅰ
多文化共生・異文化間教育演習Ⅰ
多文化共生・異文化間教育演習Ⅱ
多文化共生・異文化間教育演習Ⅲ
多文化共生・異文化間教育演習Ⅳ
日本語学演習Ⅰ
日本語教育学演習Ⅰ
日本語教育学演習Ⅱ
英語教育学演習Ⅰ
英語教育学演習Ⅱ
英語教育学演習Ⅲ
英語教育学演習Ⅳ
視覚文化演習Ⅰ
文化関係・文化変容演習Ⅰ
文化関係・文化変容演習Ⅱ
文化関係・文化変容演習Ⅲ
日本思想演習Ⅰ
日本思想演習Ⅱ

特修科目（選択）	
ポップカルチャー研究A～I	英語教育学研究（カリキュラムデザイン）
日本社会・産業システム研究（国際メディア）	英語教育学研究（スピーチコミュニケーション）
日本社会・産業システム研究（情報産業）	英語教育学研究（レトリック）
日本社会・産業システム研究（国際知財）	英語教育学研究（心理言語学）
日本社会・産業システム研究（クリエイティブ産業）	英語教育学研究（インストラクショナル・コミュニケーション）
日本社会・産業システム研究（広告）	視覚文化研究（演劇）
日本社会・産業システム研究（流通A、B）	文化関係・文化変容研究（日本近代文学A～D）
日本社会・産業システム研究（ものづくり経営A、B）	文化関係・文化変容研究（フランス語圏A、B）
国際関係・地域研究（アフリカ）	文化関係・文化変容研究（映画）
多文化共生・異文化間教育研究（異文化間教育学特論）	文化関係・文化変容研究（近代化と開発）
多文化共生・異文化間教育研究（多文化共生特論）	文化関係・文化変容研究（記号と環境A、B）
多文化共生・異文化間教育研究（多文化共生と地域社会）	文化関係・文化変容研究（カルチュラル・スタディーズA、B）
多文化共生・異文化間教育研究（留学生政策）	文化関係・文化変容研究（日本古典文学）
多文化共生・異文化間教育研究（企業とダイバーシティ）	日本思想研究A～F
多文化共生・異文化間教育研究（文化間移動と教育）	応用言語学研究（第2言語習得理論A、B）
多文化共生・異文化間教育研究（発達心理学）	応用言語学研究（社会言語学）
多文化共生・異文化間教育研究（多文化共修）	応用言語学研究（語用論）
アクションリサーチ	応用言語学研究（Discourse Analysis）
日本語学研究A～D	応用言語学研究（コーパス言語学）
日本語教育学研究A～E	リサーチメソッド研究（量的研究方法）
英語教育学研究（学習指導要領と指導法）	リサーチメソッド研究（質的研究方法）
英語教育学研究（マテリアル・デベロップメント）	
英語教育学研究（英語教授法）	

特修科目（必修）
国際日本学総合研究

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

■ 博士後期課程

必修科目		選択必修科目	
研究論文指導（ポップカルチャー）	研究論文指導（言語・国際交流）	ポップカルチャー特別研究	言語・国際交流特別研究
研究論文指導（社会・情報・国際関係）	研究論文指導（文化・思想）	社会・情報・国際関係特別研究	文化・思想特別研究

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

博士前期課程 6つの研究領域

ポップカルチャー研究領域

日本の先端文化、マンガ・アニメ・ゲーム

マンガ・アニメ・ゲーム・特撮に代表される日本のポップカルチャーの一翼の、文化・産業両面の歴史的な発展過程や現状、それらの国内外での受容や、ジェンダーとの関わり、さらには同人誌即売会や「おたく文化」の秋葉原への集中に見受けられるような、特定のスタイルやテイストの発生と、それに基づくコミュニティや場の形成などに目を向けます。また、サブカルチャーとみなされてきたものに大きくまたがるそれら文化のアーカイブ構築や、保存・運用に関する実践的研究を行います。



「おたく：人格＝空間＝都市」展（ヴェネチア・ビエンナーレ第9回国際建築展日本館）

多文化共生・異文化間教育研究領域

ダイバーシティが社会を変える！

この領域では、多様な人々が共に生きる社会づくりについて研究します。グローバル化の進展の中で、外国からの労働者や留学生そして移民など多様な文化背景を有する人々が増加しています。また、地域社会や学校、大学あるいは企業における多様性（個性、ジェンダー、障がい等）もより重視されるようになりました。本領域では、そうした変化がもたらす課題を研究します。外国人に関わる課題、ダイバーシティ&インクルージョン（ジェンダー、障がい、世代など）、地域における多様な協働のあり方、多様性から知を生み出す教育および学習環境デザイン/テクノロジー活用、異文化体験が人間の成長・発達にどのように影響するか、多文化共生を目指す教育の実践とは何かなどが、研究の問いになります。



英語教育学研究領域

英語教育は科学だ！理論を学び、実践に活かそう

母語は無意識で習得できるのに、なぜ第二言語を習得するのは難しいのでしょうか。どうすれば効果的な英語教育を行うことができるのでしょうか。その答えを得るためには、応用言語学、社会言語学、心理言語学、認知言語学などの言語学の分野はもとより、言語政策やメディア研究、脳科学などさまざまなアプローチが可能です。その意味で、英語教育は学際的な分野です。最新の理論や知見、研究方法を学び、教育現場で実践できる力をつけましょう。



グループワークをする
フィンランドの小学生

最近接発領域論とは、「子どもは、大人より能力がある人のscaffoldingを得て、一人では解決出来なかった問題が解決できる状態となる」という考え方である。つまり人は、他者調整（他の人の助けや協力）を得て、やがて自己調整（自律）の道筋をたどるのである。それを具現化しているのがフィンランドの教育である。

日本社会・産業システム研究領域

日本の社会・産業システムの特徴・問題点を探究！

近年、ICT（情報通信技術）やAI（人工知能）を筆頭とするデジタルテクノロジーの革新と進歩によって、人々の暮らしは大きく変わっています。そしてまた、企業活動はますます高度化・複雑化し、社会の仕組みも多様化の様相を呈しています。この研究領域では、日本における消費行動や企業活動、産業構造、そしてその総体としての社会システムのダイナミズム、すなわちその変化や動態を研究します。より具体的には組織の在り方と企業文化、日本的経営やものづくり、日本的流通システム、広告、情報産業およびクリエイティブ産業などを対象として、実践的・理論的な諸問題を考察します。

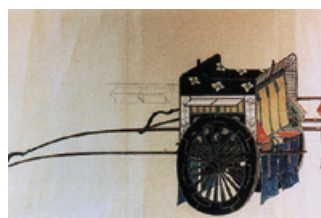


出典：Society 5.0 - 内閣府より

日本語学・日本語教育学研究領域

「日本語」を携え、世界へ

日本語を研究対象とする「日本語学」の分野では、日本語を歴史的に捉える通時的研究と、現代語など時代を限定してその時代の日本語を捉える共時的研究が可能です。どちらの場合でも、日本語の姿を文字、語彙、文法、文章、運用、認識の仕方などの側面から解明します。日本語を外国語として教えるための研究をする「日本語教育学」の分野では、日本語に関する言語学的な知見と他の言語との対照に基づいて、学習者にとって日本語のどのような側面が習得しにくいのかを解明し、どのようにすれば学習者が自然な日本語を効率的に習得できるようになるのかを追究します。



出典：山口仲美『平安朝「元氣印」列伝』
掲載の口絵写真より

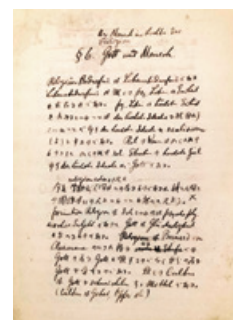
雅やかな昔の日本の乗り物「牛車」。これに乗ると、慣れない人は「車酔い」をした。はてさて、「牛車」「車酔い」の言葉はいつから使われたのか？物や認識の仕方に関わる「言葉」を追究することは、日本文化を究めることに連なります。

文化・思想研究領域

文化・思想から日本と世界を知る

日本のことを知るにしても、世界の他の地域のことを知るにしても、そこに生きる人々がどのような文化を持ち、どのようなことを考えてきたのかという視角は欠かせません。この領域では、過去から現在へと至る世界各地の文化や思想について、幅広い視点から研究していくことを目指します。文献資料や視覚・聴覚資料、有形・無形の文化財を知的資源として活用していくための調査・分析技術を習得し、さらに、その外側と内側に広がっている文化や思想にアプローチしていきます。

西田幾多郎の宗教学講義ノート
（『西田幾多郎全集』別巻、岩波書店、2020年より）
1913年9月からおこなわれた京都帝国大学での「宗教学普通講義」のためのノートであると推定される。世界各地の文化や思想を視野に入れて、独自の宗教論が展開されている。写真のページは、半分近くがドイツ語で書かれている。



2024年度 修士論文テーマ [抜粋]

- ▶ D2Cビジネスの特徴とその限界に関する研究
— CAO理論の観点から —
- ▶ 『COM』読者投稿欄「ぐら・こんロビー」の研究
— 〈手塚神話〉と「マンガ世代」 —
- ▶ 週刊少年マンガ誌における男性主人公の身体的特徴の変化
— 『週刊少年ジャンプ』『週刊少年マガジン』『週刊少年サンデー』を事例として —
- ▶ 少年漫画誌における「ラブコメ」ジャンルの形成過程について
- ▶ ビルマ人コミュニティにおけるキーパーソンの社会的自立とコミュニティの変化 — 在日ビルマ難民の語りから —
- ▶ 日本と中国におけるデジタルゲーム産業の比較分析
— ゲームプレイを行う「遊ぶ場」の違いに着目 —
- ▶ 近代日本語の伝播から見た中国人の国家意識の生成
— 『清議報』に翻訳・掲載された日本語雑誌記事の分析を中心に —
- ▶ 外来語における形容動詞と名詞の連続性
— 用法に基づくグラデーションの可視化 —
- ▶ Demotivation in Japanese EFL Education: Insights from Motivation and Disengagement Perspectives
- ▶ Understanding Task Characteristics and Flow States in Japanese EFL Classrooms: A Scoping Review and Empirical Study
- ▶ オスカー・ワイルドのホモセクシュアリティの日本における受容
— 谷崎潤一郎を中心に —
- ▶ 谷崎潤一郎「魔術師」論 — 日本表象とエキゾティシズム —



年度・研究領域別 修士論文テーマ一覧および要旨一覧

https://www.meiji.ac.jp/ggjs/m_themes_title.html

博士後期課程 教育課程編成の基本方針

博士後期課程では、博士前期課程における教育研究を基盤としつつ、より広く深い研究を行うことを目指すべく、独自のカリキュラム編成を採ります。このため、博士前期課程における研究領域の区分をなくし、学生が自らの関心に従って自由に領域を超えて学ぶことが出来る環境を整えます。

博士後期課程で学ぶ学生の研究テーマは、より特殊で具体的なものとなりますが、それに伴って、より広い研究領域の知識が必要不可欠となるからです。指導教員のもとでの論文作成が、大学院生の研究生生活の中心になるという点では、博士前期課程と博士後期課程の間に違いはありません。

近年の博士学位授与

課程博士

学位の種類	論文タイトル	授与年度
博士 (国際日本学)	Classroom Conversation in Japanese Elementary School English Lessons: A Conversation Analytic Perspective	2020年度
博士 (国際日本学)	海外中等教育段階の日本語教育カリキュラムフレームワークの構築 — 文化間移動の観点から —	2020年度
博士 (国際日本学)	Developing Teaching Methodologies to Promote English Learners' Successful Motivated Vocabulary Learning 英語学習者の語彙学習行動改善に資する教育方法の開発	2021年度
博士 (国際日本学)	Motivational Effects of Variations in Sequence of Cooperative Learning Activities 異なる協同学習の順番が「動機づけ」にもたらす影響について	2021年度
博士 (国際日本学)	新聞における文章の近代化 — 明治大正期『読売新聞』を中心に —	2022年度
博士 (国際日本学)	西谷啓治の「空」の立場における主体	2023年度
博士 (国際日本学)	中国語を母語とする日本語学習者の多義和語動詞の習得における母語の影響 — 「受ける」と「送る」を例に —	2023年度
博士 (国際日本学)	戦後の日韓外来語の通時的対照研究	2023年度
博士 (国際日本学)	授業場面に生じる「対立」を契機とした共生に関する実証的研究	2023年度
博士 (国際日本学)	Fluency Instruction in Elementary School English Education in Japan	2023年度
博士 (国際日本学)	中国人日本語学習者による外来語の意味理解に関する研究	2024年度
博士 (国際日本学)	中国に由来する年中行事の日本の変容 — 上巳、端午、七夕を例に —	2024年度

● 院生からのメッセージ



王 麗雯

WANG Liwen

国際日本学専攻
日本社会・産業システム領域
博士前期課程 2年

国際的な視点で研究の世界を広げる環境

国際日本学研究所は、多様な研究領域を持っていることが魅力だと思います。異なる分野を研究する人々と接することで、自分の研究に新たな視点を取り入れることができ、常に新しい刺激を受けています。研究生活を送る中で、先生や先輩からのアドバイスのおかげで、日々成長を実感しています。国日研は、留学生との交流を通じて異なる価値観に触れ、国際的な視点を得ることができる他、様々な分野と関わるができるため、多様な環境の中で自分の研究の新たな可能性を探ることができます。

博士前期課程
Master's Program

Q 師事している教員は？

A 戸田 裕美子 教授

戸田ゼミでは、流通システムの研究を中心に行っていますが、多様な研究関心を持つゼミ生もいるため、それぞれが興味のある研究に挑戦することができます。異なる分野について議論することで、知識の幅が広がる貴重な場だと感じています。授業では文献を輪読し、さまざまな意見を交換し合いながら、その分野に関する知識を深めることができます。

教員情報 P.113



羽佐間 香子

HAZAMA Kyoko

国際日本学専攻
多文化共生・異文化間教育
研究領域
博士前期課程 2年

研究を深められる他領域の「近さ」と先生方の「近さ」

本研究科には、自身の研究を深められる2つの「近さ」があります。ひとつは専門以外の領域との「近さ」です。研究対象の周囲にあるものに触れる環境があるからこそ、その対象の輪郭が明確になります。思いがけず、他領域の内容が自身の研究の閃きに繋がることもあります。もうひとつは先生方との「近さ」です。研究に行き詰まってしまった時に、共に次のステップを探し、再び自走できるよう指導して下さる先生方が側にいます。これらの「近さ」のおかげで日々研究に専心できています。

博士前期課程
Master's Program

Q 師事している教員は？

A 岸 磨貴子 教授

私の研究テーマは探究学習です。現在は、アートの手法を用いた探究方法 (Arts-Based Research) について研究しています。高等学校の総合的な探究の時間において先生方・生徒共に授業実践をし、アート手法を用いた探究学習の可能性を、私自身も探究しています。

教員情報 P.114

● 修了生からのメッセージ



鈴木 洋海

SUZUKI Hiromi

国際日本学専攻
英語教育学研究領域
博士前期課程
2025年3月修了

なりたい自分と出会うために

私は英語教員を目指し、大学に進学しました。しかし、大学入学後、自身の知識不足から、このままだと生徒に迷惑をかけると思い、大学院進学を決意しました。

進学後は、研究や教師の正解が一つではないことを学びました。それから、自分と向き合うようになり、生徒の気持ちを尊重できる教師を目指し、研究・学習に励むことができました。これは、教育に関する複数の研究領域が存在する、本研究科の特徴のおかげだと思います。教育に興味がある方は、ぜひ本研究科で新しい自分を見つけてください。

博士前期課程
Master's Program

Q 師事していた教員は？

A 廣森 友人 教授

廣森研究室では、第二言語学習の心理学に関する研究を行います。やる気がどうすれば高まるか、どうしたら学習意欲を維持できるかといった、心と英語学習の関係を主に研究します。廣森ゼミの特色のひとつは、国内外問わず1回は、学会で研究成果を発表し、自身の知見を深める機会を得られることです。

教員情報 P.115



酒井 梨帆

SAKAI Rihou

国際日本学専攻
文化・思想研究分野
博士後期課程
2024年3月修了

充実した研究助成制度

私がこの研究科に進学した理由は、学部生時代にお世話になった先生のもとで、もっと勉強してみたいと思ったからです。進学するにあたって金銭面に不安がありましたが、給付型の奨学金や、TA制度、助手制度などのおかげで、無事に博士前期・後期課程を修了することができました。博士論文を書く前には、国際共同研究推進プログラムに採択され、留学もさせていただきました。このように、学生が安心して研究できる環境が用意されている点が、この研究科の魅力の一つだと思います。

博士後期課程
Doctoral Program

Q 師事していた教員は？

A 美濃部 仁 教授

美濃部仁先生のゼミには、哲学を専門にする学生が多く在籍しています。ゼミでは、日本語やドイツ語、英語で書かれたテキストを皆で丁寧に読み進めていきます。また、自分の研究内容に関する発表を行ない、皆でそれについて議論します。研究生活を通して、テキストを正確に解釈する力、自分の解釈を筋道立てて相手に説明する力などが培われます。

教員情報 P.115

教員一覧

ポップカルチャー研究領域

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。
 ※ 各教員の研究指導の学生募集の有無については、入学試験学生募集要項公開時の研究指導教員一覧表で確認してください。

■ ポップカルチャー研究領域 教員一覧 >>>



藤本 由香里

FUJIMOTO Yukari

教授

研究分野 少女マンガの発展過程・マンガの国際比較

【最終学歴】 東京大学
 【担当授業科目】 ポップカルチャー演習ほか
 【研究テーマ】 少女マンガに見る女性の意識の時代的変化／表現技法の発展史／マンガにおける性別越境表現／マンガの国際比較（流通条件や表現規制・著作権問題を含む）



宮本 大人

MIYAMOTO Hirohito

教授

研究分野 漫画史

【最終学歴】 東京大学大学院
 【担当授業科目】 ポップカルチャー演習ほか
 【研究テーマ】 昭和戦前・戦中期における子供向け物語漫画の表現／出版・流通・受容、およびそれに対する統制



森川 嘉一郎

MORIKAWA Kaichiro

准教授

研究分野 マンガ・アニメ・ゲーム・おたく文化史、同領域のアーカイブ構築と展示運用

【最終学歴】 早稲田大学大学院
 【担当授業科目】 ポップカルチャー演習ほか
 【研究テーマ】 おたく文化史／マンガ・アニメ・ゲームのアーカイブ構築と展示運用／趣味 (taste) と都市空間

日本社会・産業システム研究領域

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。
 ※ 各教員の研究指導の学生募集の有無については、入学試験学生募集要項公開時の研究指導教員一覧表で確認してください。

■ 日本社会・産業システム研究領域 教員一覧 >>>



小笠原 泰

OGASAWARA Yasushi

教授

研究分野 無形資本とデジタルテクノロジーと経営・社会

【最終学歴】 シカゴ大学社会科学大学院・経営学大学院
 【担当授業科目】 日本社会・産業システム（国際知財）
 【研究テーマ】 グローバル化とデジタルテクノロジーの進歩によるデータを含めて無形資産（知財）が企業経営および国家・社会に与える影響について



呉 在烜

OH Jeecheon

博士（経済学）
教授

研究分野 ものづくりシステムの国際比較

【最終学歴】 東京大学大学院
 【担当授業科目】 日本社会・産業システム演習ほか
 【研究テーマ】 ものづくり組織能力の国際比較とグローバル経営の研究



戸田 裕美子

TODA Yumiko

博士（商学）
教授

研究分野 日本的流通システム

【最終学歴】 慶應義塾大学大学院商学研究科博士課程
 【担当授業科目】 日本社会・産業システム演習ほか
 【研究テーマ】 日本的流通システムの歴史的分析



田中 絵麻

TANAKA Ema

博士（学術）
准教授

研究分野 メディア政策論・ICT政策論、コンテンツ産業論

【担当授業科目】 日本社会・産業システム演習ほか
 【研究テーマ】 AI時代における情報通信産業政策、コンテンツ産業の構造変化、メディア・リテラシーの要件



小野 雅琴

ONO Makoto

博士（商学）
准教授

研究分野 広告論、消費者行動論、マーケティングリサーチ

【最終学歴】 慶應義塾大学大学院
 【担当授業科目】 日本社会・産業システム研究（広告）
 【研究テーマ】 広告等のマーケティング・コミュニケーション情報が消費者の製品評価に与える影響をテーマに、理論モデルを構築し実証する研究

多文化共生・異文化間教育研究領域

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

※ 各教員の研究指導の学生募集の有無については、入学試験学生募集要項公開時の研究指導教員一覧表で確認してください。

■ 多文化共生・異文化間教育研究領域 教員一覧 >>>



山脇 啓造

YAMAWAKI Keizo

教授

研究
分野

移民政策／多文化共生論

【最終学歴】コロンビア大学国際関係・公共政策大学院
【担当授業科目】多文化共生・異文化間教育演習ほか
【研究テーマ】国と地方自治体の外国人政策／多文化共生の地域づくりと学校づくり



岸 磨貴子

KISHI Makiko

博士(情報学)
教授

研究
分野

教育工学・学習環境デザイン

【最終学歴】関西大学大学院
【担当授業科目】多文化共生・異文化間教育演習ほか
【研究テーマ】探究学習を多様化するアートベース・リサーチ／ワークショップのデザイン



平井 達也

HIRAI Tatsuya

Ph.D.
教授

研究
分野

異文化間教育学、カウンセリング心理学

【最終学歴】ミネソタ大学教育心理学大学院
【担当授業科目】多文化共生・異文化間教育演習ほか
【研究テーマ】多文化ファシリテーション、グローバルリーダー育成、キャリア教育

日本語学・日本語教育学研究領域

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

※ 各教員の研究指導の学生募集の有無については、入学試験学生募集要項公開時の研究指導教員一覧表で確認してください。

■ 日本語学・日本語教育学研究領域 教員一覧 >>>



田中 牧郎

TANAKA Makio

博士(学術)
教授

研究
分野

日本語学／日本語の歴史

【最終学歴】東京工業大学大学院
【担当授業科目】日本語学演習ほか
【研究テーマ】語彙の歴史的な研究／日本語の言語問題に関する研究／コーパスに基づく日本語研究



小森 和子

KOMORI Kazuko

博士(学術)
教授

研究
分野

第二言語習得／日本語教育(語彙)／評価

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】日本語教育学演習ほか
【研究テーマ】第二言語としての日本語の語彙習得に及ぼす母語の影響／語彙知識の評価測定

英語教育学研究領域

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。
※ 各教員の研究指導の学生募集の有無については、入学試験学生募集要項公開時の研究指導教員一覧表で確認してください。

■ 英語教育学研究領域 教員一覧 >>>



大須賀 直子

Ph. D. (Linguistics)
教授

研究分野 中間言語用論／英語教育／第2言語習得

【最終学歴】ランカスター大学大学院
【担当授業科目】英語教育学演習ほか
【研究テーマ】日本人学習者の語用論的能力についての研究



廣森 友人

博士 (国際広報メディア)
教授

研究分野 英語教育学／心理言語学／第二言語習得研究

【最終学歴】北海道大学大学院
【担当授業科目】英語教育学演習ほか
【研究テーマ】第二言語学習の心理学。第二言語 (英語) を学ぶにはどんな学習方法が効果的なのか、やる気はどうすれば高まるのか



ルーゲン, ブライアンD.

Ph. D. (Education)
教授

研究分野 Applied Linguistics; TESOL

【最終学歴】ハワイ大学マノア校
【担当授業科目】応用言語学研究 (Discourse Analysis) ほか
【研究テーマ】Discourse and identity; English language teacher education; curriculum development in TESOL



マクロクリン, デイヴィッドA.

Ed. D.
准教授

研究分野 Motivation in Second Language Learning / Self-regulation of motivation

【最終学歴】エクセター大学大学院
【担当授業科目】応用言語学研究 (第2言語習得理論A)
【研究テーマ】Motivation in Second Language Learning



大矢 政徳

博士 (学術)
教授

研究分野 言語学 (コーパス言語学、依存文法)

【最終学歴】早稲田大学大学院
【担当授業科目】英語教育学演習ほか
【研究テーマ】依存文法の枠組みに基づいた自然言語統語構造の定量的比較対照研究

文化・思想研究領域

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。
※ 各教員の研究指導の学生募集の有無については、入学試験学生募集要項公開時の研究指導教員一覧表で確認してください。

■ 文化・思想研究領域 教員一覧 >>>



長尾 進

NAGAO Susumu

教授

研究分野 身体教育学—武道論

【最終学歴】筑波大学大学院修士 (体育学)
【担当授業科目】日本思想演習ほか
【研究テーマ】武道思想史／武道技術史／武道の国際普及



美濃部 仁

MINOBE Hirosi

博士 (文学)
教授

研究分野 哲学、とくに宗教哲学

【最終学歴】京都大学大学院
【担当授業科目】日本思想演習ほか
【研究テーマ】西田とドイツ観念論における「絶対的なもの」を、とくに「自我」との関係において研究



小谷 瑛輔

KOTANI Eisuke

博士 (文学)
教授

研究分野 日本近現代文学

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】文化関係・文化変容演習ほか
【研究テーマ】芥川龍之介の文学／文学理論／文芸批評／近現代日本文化



鵜戸 聡

UDO Satoshi

博士 (学術)
教授

研究分野 フランス語圏アラブ＝ベルベル文学

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】文化関係・文化変容演習ほか
【研究テーマ】アルジェリアを中心とするフランス語圏文学・アラブ文学／欧州におけるイスラームとユマニスム／移民船と航路



馬場 小百合

BABA Sayuri

博士 (学術)
特任講師

研究分野 日本古典文学

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】文化関係・文化変容研究 (日本古典文学)
【研究テーマ】日本上代文学における漢字表現



張 佳能

ZHANG Canon

博士 (文学)
特任講師

研究分野 ポピュラー音楽研究

【最終学歴】大阪大学大学院
【担当授業科目】カルチュラル・スタディーズA・B
【研究テーマ】20世紀の大衆文化史／昭和期の大衆音楽